

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成16年10月7日(2004.10.7)

【公表番号】特表2000-510501(P2000-510501A)

【公表日】平成12年8月15日(2000.8.15)

【出願番号】特願平9-525506

【国際特許分類第7版】

C 08 L 57/08

C 08 K 5/06

C 08 K 5/16

C 08 K 5/49

C 08 K 5/59

C 08 L 27/12

C 08 L 71/00

【F I】

C 08 L 57/08

C 08 K 5/06

C 08 K 5/16

C 08 K 5/49

C 08 K 5/59

C 08 L 27/12

C 08 L 71/00

【手続補正書】

【提出日】平成15年9月19日(2003.9.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成 15 年 9 月 19 日

特許庁長官殿

適

1. 事件の表示

平成 9 年特許願第 525506 号

2. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

名 称 ダイネオン エルエルシー

3. 代 理 人

居 所 〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目 2 番 1 号
 新 大 手 町 ビ ル デ ン グ 3 3 1
 電 話 (3211) 3651 (代表)
 氏 名 (6669) 渋 村 白告



4. 補正により減少する請求項の数 4

5. 補正対象書類名

請求の範囲

6. 補正対象項目名

請求の範囲

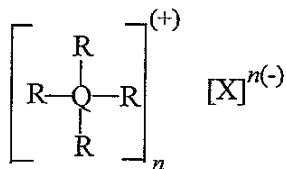
7. 補正の内容 別紙のとおり



請求の範囲

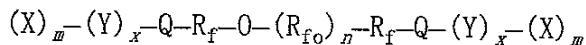
1. (1) フルオロカーボンエラストマゴム、及び
 (2) 鎖状又は分枝のペルフルオロアルキレンエーテル基を含む官能性フルオロ脂肪族エーテル塩を含むフッ素化エーテル組成物（該鎖状又は分枝のペルフルオロアルキレンエーテル基はランダム、ブロック又はそれらの任意の組合せであつてもよく、該官能性フルオロ脂肪族エーテル塩の各末端は末端基に結合しているが、かかる末端基の少なくとも一つはアルコキシド金属塩又はアミノ塩である）を含有するフルオロカーボンエラストマ組成物。

2. 式：



[式中、Qは、窒素、リン、砒素又はアンチモンであり、Xは、有機又は無機の陰イオンであり、nは、陰イオンXの原子価に等しく、各Rは独立にアルキル、アリール、アルケニル、又はこれらの組合せ若しくは式、 CY_2COOR' （Yは水素又はハロゲン原子であるか、若しくは1から約6の炭素原子を有する置換又は無置換のアルキル又はアリール基であり、R'は水素原子、金属陽イオン、アルキル基又は式-COR'''（R'''はアルキル基又はそれ自身が有機オニウムを含む基）の基であり、各Rは塩素、フッ素、臭素、シアノ、-OR'又は-COOR'（R'はC₁～C₂₀アルキル、アリール、アリールアルキル又はアルケニル基である）で置換することもでき、R基の任意の一対は相互にそしてQ原子と結合して複素環を形成することができる]の有機オニウム化合物を更に含有する、請求項1の組成物。

3. 前記フッ素化エーテル組成物が式：



[式中、各々のR_fが、独立して、1～約20個の炭素原子を有する鎖状又は分枝のペルフルオロアルキレン基であり、

R_{f_0} が、ランダム、ブロック又はそれらの任意の組合せであってもよい1個以上の鎖状又は分枝のペルフルオロアルキレンエーテル基を含み、

各々のQが、独立して、二価の結合基であり、

各々のYが、独立して、二価の金属原子又は一価の金属原子であり、

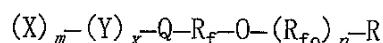
各々のXが、独立して、ハロゲン原子、ヒドロキシル基、又は式 $-OR'$ 又は $-OOCR'$ (式中、 R' が1～約4個の炭素原子を有する短鎖アルキル基である) であり、

nが0～30の数であり、

xが、0又は1であり (ただし、Qの末端がアミノ基であるとき、xは0である) 、

mが0又は1である (ただし、Yが一価の金属原子であるとき、mは0であり、Yが二価の金属原子であるとき、mは1であり、xが0であるとき、mは0である)]によって表される二官能性フルオロ脂肪族エーテル塩を含む請求項1又は2の組成物。

4. 前記フッ素化エーテル組成物が式:



[式中、各々の R_f が、独立して、1～約20個の炭素原子を有する鎖状又は分枝のペルフルオロアルキレン基であり、

R_{f_0} が、ランダム、ブロック又はそれらの任意の組合せであってもよい1個以上の鎖状又は分枝のペルフルオロアルキレンエーテル基を含み、

各々のQが、独立して、二価の結合基であり、

各々のYが、独立して、二価の金属原子又は一価の金属原子であり、

各々のXが、独立して、ハロゲン原子、ヒドロキシル基、又は式 $-OR'$ 又は $-OOCR'$ (式中、 R' が1～約4個の炭素原子を有する短鎖アルキル基である) であり、

Rが、1～約10個の炭素原子を含有する一価のフッ素化又は非フッ素化アルキル基又は2～10個の炭素原子を含有する一価のフッ素化又は非フッ素化アリル基であり、

nが0～30の数であり、

x が、0 又は 1 であり (ただし、Q の末端がアミノ基であるとき、 x は 0 である)、

m が 0 又は 1 である (ただし、Y が一価の金属原子であるとき、 m は 0 であり、Y が二価の金属原子であるとき、 m は 1 であり、 x が 0 であるとき、 m は 0 である)] によって表される一官能性フルオロ脂肪族エーテル塩を含む請求項1 又は2 の組成物。

5. Q が、 $-O-$ 、 $-C_6H_3(R')O-$ 、 $-CH_2CR_2O-$ 、 $-CR_2O-$ 、 $Z-N^+H_3-C_6H_3(R')-$ 、及び $Z-NH_3^+-CH_2-$ (R は水素原子若しくは 1 から約 2 の炭素原子を有するフッ素化又は非フッ素化アルキル基であり、R' は水素又はハロゲン原子若しくは 1 から 10 の炭素原子を有する置換又は無置換、環式又は非環式のアルキル又はアリール基であって、任意に 1 個以上のヘテロ原子を連鎖に有してもよいものであり、Z は陰イオンである) からなる群より選択される、請求項3 又は4 の組成物。

6. フルオロカーボンエラストマゴム及び

鎖状又は分枝のペルフルオロエーテル構造 (当該構造の各末端は末端基に結合しているが、かかる末端基の少なくとも一つはアルコキシド金属塩又はアミノ塩である) を含む官能性フルオロ脂肪族エーテル塩を含むフッ素化エーテル組成物を混合する工程を含む、エラストマー組成物の製造方法。

7. 1) フルオロカーボンエラストマゴム及び

鎖状又は分枝のペルフルオロエーテル構造 (当該構造の各末端は末端基に結合しているが、かかる末端基の少なくとも一つはアルコキシド金属塩又はアミノ塩である) を含む官能性フルオロ脂肪族エーテル塩を含むフッ素化エーテル組成物を含む、配合エラストマ組成物を高温において物品の形状に成形する工程、及び
2) その成形した物品を加熱して前記配合エラストマ組成物を硬化せしめる工程を含む、硬化したエラストマ物品の形成方法。

8. 請求項 1 に記載の組成物をその硬化された状態で含む、成形された物品。